

JAバンク・JFマリンバンクの運用の 最終的な担い手として安定した収益を追求

当金庫の投資ビジネスは、JAバンク・JFマリンバンクの資金を、国際分散投資とスケールメリットをキーワードに効率的に運用することで、得られた運用益を会員に還元していくことを究極の目的としています。

株式・債券等の伝統的資産のみならず、CLOをはじめとした証券化商品や、プライベートエクイティファンド・ヘッジファンド等のオルタナティブ投資、プロジェクトファイナンス、不動産投融資等、幅広い資産への投資を、これまでに積み上げた専門的知見とネットワークを活かして実行しています。また、投資ビジネスにおいても、気候変動対応や生物多様性保全に貢献する商品に投資する等、サステナブル・ファイナンスに取り組んでいます。

さらに、こうした当金庫の投資ノウハウの活用と収益源の多様化を目的に、グループ会社を中核とした資産運用ビジネスの強化にも乗り出しています。



理事専務執行役員
最高投資責任者 (CIO)
グローバルインベストメント&
バンキング本部統括役員
牛窪 克彦

中期ビジョン実現に向けた投資ビジネスの考え方

2030年の環境認識 (投資ビジネス)

- 投資環境は、グレートモデレーション(低インフレ・低金利・低ボラティリティ)の終焉、金利のある世界の復活、政策調整の頻度上昇などの変化が生じている。一方、一定の景気サイクルや、当金庫を取り巻く厳しい金融規制などは大きく変わっていない。
- 長期的に変わるものと変わらないものを踏まえつつ、収益獲得にかかる高度化・多様化を目指していく状況にある。

「2030年のありたい姿」の実現に向けた考え方

従来の財務運営を振り返りつつ、今後想定される環境変化等も踏まえながら、投融資ポートフォリオの見直しを含めた現行の国際分散投資を更に発展させていく。

また、貸出ビジネスや資産運用ビジネスの収益向上も図ることで、持続的な財務・収支基盤の維持・構築を目指し、会員からの安定的な収益・機能還元に関する期待に応えていく。

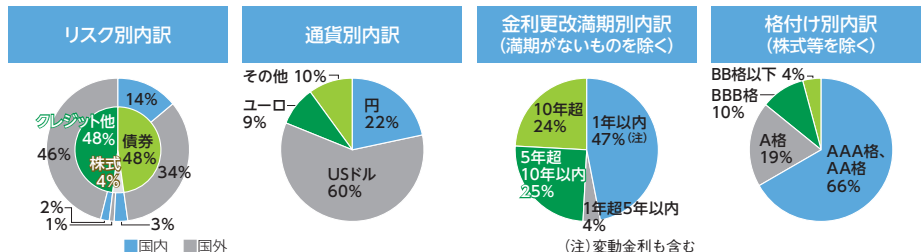
2024年度の取組実績

2025年度以降の収支底上げに向けた取組み

2024年度においては、投融資ポートフォリオの改善により2025年度以降の収支を底上げするため、米欧国債や投資適格社債を中心とする低利回り資産の売却を進めました。その結果、期末時点の市場運用資産残高は40.3兆円(前期末比△16.0兆円)と減少しました。

また、収益源の分散に向けた取組みとして、低利回り資産の売却とあわせ、債券・株式等の市場リスク資産のポートフォリオバランスを見直し、信用リスク資産をはじめとした幅広い資産への投資を行いました。加えて、海外を含めた信用リスク資産の収益力強化にかかる企画・推進機能を集約する等の体制整備を実施しました。

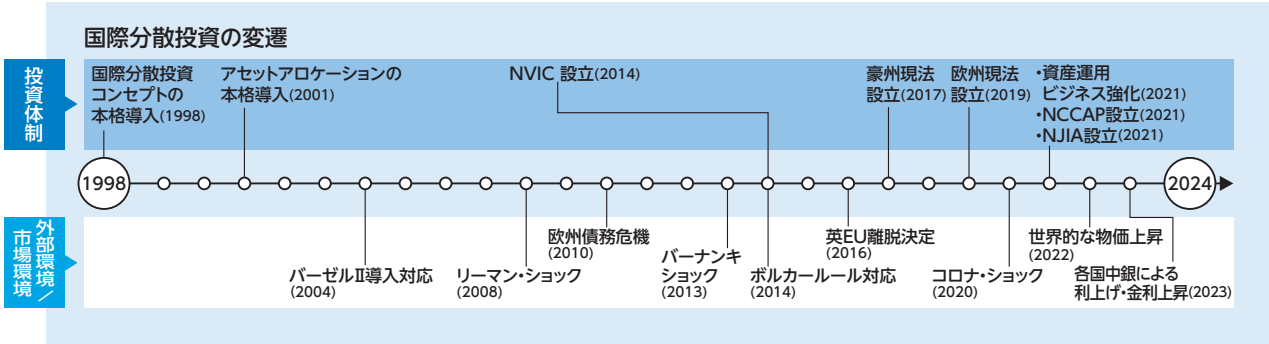
市場運用資産残高
40.3兆円
(2025年3月末時点)



国際分散投資とは

当金庫は、運用益を会員に還元し続けていくことを究極の目的として、スケールメリットを活かした効率的な運用を行うとともに、グローバルな金融市場を舞台として、いち早く1998年から「国際分散投資」に取り組んできました。現地法人を含めた海外の各拠点を通じたグローバルなネットワークから豊富に得られる情報を精査したうえで、限られた市場・資産に集中投資するのではなく、リスク・リターン特性の異なる幅広い市場・資産に分散投資することで、ポートフォリオ全体のリスクを抑制しています。当金庫は、中長期的な収益の安定化を更に追求するため、投資手法やリスクマネジメントについて不断の見直しを行い、国際分散投資の高度化に挑戦し続けています。

農林中金グループが一体となって、変化の激しい市場環境や顧客・取引先のニーズに柔軟に対応するとともに、新しい領域・分野に挑戦し、持続的な財務・収益基盤を構築・維持することで、会員からの安定的な収益・機能還元に関する期待に応え続けたい



資産運用ビジネスの取組み

資産運用ビジネスにおいては、外部収益獲得や系統組織への運用機会提供に向け、農林中金全共連アセットマネジメントにおいて商品ラインナップの拡大を進めたほか、2021年に立ち上げた農林中金キャピタルと農中JAML投資顧問においても、優良な投資機会の提供に向け、着実に案件のソーシングを進めました。

当金庫の資産運用ビジネスとは

当金庫の資産運用ビジネスは、景気変動に左右されにくい運用手数料の獲得による収益源の多様化を通じて、投資ビジネスでの収益の増加と安定化、ひいてはパーパスの実現・発揮を目指すものです。当金庫のこれまでの運用経験をお客さまの多様なニーズに役立てるべく、2021年度から以下記載のグループ5社を中核に資産運用ビジネスを展開しています。当金庫本体とグループ会社がより一体的に機能することを目指し、2025年4月に事業戦略投資部を新たに設置し、グループ一丸となった資産運用ビジネスの強化を目指しています。

グループ各社の取組み

グループ会社	提供する商品	概要と直近の取組み
農林中金全共連アセットマネジメント NZAM	国債、上場株式、クレジット、オルタナティブ	<ul style="list-style-type: none"> NZAMは多様な投資商品を手掛けており、景気サイクルに応じたフルラインアップでの商品提供が強みです。こうした強みをもとに、機関投資家に対して幅広い投資機会を提供するとともに、専門人材の育成やポートフォリオ運営・リスク管理等にかかるソリューション機能の更なる拡充に取り組んでいます。 また、JAバンクの資産形成・資産運用の取組みをサポートするべく、JA利用者向けのセミナーやJA職員向けの勉強会の開催も行っています。
 農中信託銀行株式会社	信託商品等	<ul style="list-style-type: none"> 農中信託銀行は、債権流動化・シンジケートローン・不動産ビジネスマッチングといった資産管理に関する様々なソリューションを展開しています。また個人のお客さまにはJA・JA信農連を通じた遺言信託サービスを提供しています。 また、将来的な投資家への更なる投資機会提供に向けて、2024年度にデジタル資産*全般の発行・管理基盤を提供する企業へ出資をいたしました。 *ブロックチェーン等の電子情報処理組織上で電子的に移転可能な財産的価値の総称。
農林中金バリューインベストメンツ (NVIC) Norinchukin Value Investments Co., Ltd.	上場株式	<ul style="list-style-type: none"> NVICは、「長期厳選投資」をコンセプトに投資先を厳選したうえで長期的なリターンを狙う投資ビジネスを展開しています。機関投資家に加え、個人投資家に向けても投資信託商品「おおぶね」シリーズを提供しています。また学生向けのセミナーを開催し、投資人材の育成にも注力しています。 足元では、企業型確定拠出年金の普及に向けた取組みも進めています。
NCCAP 農林中金キャピタル株式会社	プライベート・エクイティ、コーポレートベンチャーキャピタル	<ul style="list-style-type: none"> NCCAPは、自らプライベート・エクイティ・ファンドを運用し、スタートアップから成熟企業まで様々なステージにある企業へ投資をしています。 2024年度は新たにバイアウト投資を1件手掛けたほか、イノベーション投資ファンドでは、スタートアップ企業を中心に国内外の様々な企業への戦略的な出資を実行しています。
農中JAML投資顧問 NJIA	国内不動産私募リート	<ul style="list-style-type: none"> NJIAは、私募REIT（農中JAMLリート投資法人）や不動産私募ファンド（SPC等の資産の投資一任または投資助言を受託）の運用を通じ、機関投資家等に不動産投資機会を提供しています。オフィス・商業施設・住宅・物流施設など、国内の幅広い不動産を投資対象としながら、安定的な不動産収益を求める投資家のニーズに対応し、2025年3月末時点で投資物件25件、約700億円まで運用資産が拡大しています。また、農林中金グループのお客さまが抱えるCRE（企業不動産）戦略のニーズにも対応しています。

足元の課題と現状の対応方向

足元の課題

- 各国の政治情勢や金融政策、地政学リスク等を背景に、変化の激しい市場環境が継続。様々なリスクや市場環境に耐えうる投融資ポートフォリオを構築・運営し、財務・収益基盤の持続可能性を一層高めていく必要性を認識。

現状の対応方向

- ポートフォリオバランスの更なる改善により収益源の分散化を進めるとともに、金融市場急変時等のリスクをコントロールしつつ、市場リスク資産・信用リスク資産、資産運用ビジネスそれぞれにおいて収益力向上に取り組む。

2024年度の取組事例

投資ビジネス① プロジェクトファイナンス対応

プロジェクトファイナンスを通じた脱炭素への貢献

当金庫では、国際分散投資の一環で国内外の様々なプロジェクトファイナンスに取り組んでいます。その一つとして、当金庫ロンドン支店では、イングランド北西部およびウェールズ北部の沿岸地域で回収されたCO₂を輸送し、海底に貯留するCarbon dioxide Capture and Storage (CCS)のインフラ建設・運営にかかるプロジェクト「Liverpool Bay T&S Project」への融資に対応しました。本件は同地域にCO₂輸送用のパイプラインを敷設し、リバプール湾の枯渇ガス田への貯留を安全かつ恒久的に行うものであり、約25億ポンドの大規模なプロジェクトとして、2028年の操業開始を目指しています。



プロジェクト関連のCO₂輸送・貯留施設

CCSは、電化などによる脱炭素化が困難とされる産業のカーボンニュートラル達成に向けて、その重要性が高まっています。本件への融資対応は、プロジェクトの操業を通じて地球環境への貢献に資するものと当金庫では評価しています。

当金庫の投資ビジネスでは、会員への還元を目的に、投融資を通じた収益の獲得に取り組んでいますが、あわせて本件のような環境・社会課題の解決に貢献するサステナブル・ファイナンス^{※1}にも注力しています。2025年3月末時点で、プロジェクトファイナンスの分野において、再生可能エネルギー等の環境領域では約1.2兆円、公共施設等の社会領域では約1.6兆円まで残高が積みあがっています。

当金庫としては、これからも収益の獲得と脱炭素への貢献の両立を目指したサステナブル・ファイナンスに取り組み、中期ビジョンで掲げる「会員への安定的な収益・機能還元の発揮」と「地球環境・社会・経済へのインパクト創出」の実現を目指します。

※1 詳細は [P.51](#) をご覧ください。

投資ビジネス② NVICによる企業型確定拠出年金対応

農林中金バリューインベストメンツによる企業型確定拠出年金の普及に向けた取組み

近年、長期資産形成意識の高まりを背景に、企業型確定拠出年金(企業型DC)に注目が集まっており、企業型DCの加入企業・加入者数は増加傾向^{※1}にあります。一方、たとえば投資経験が少ない等の理由により従業員自身で運用商品を選択することが難しいケースや、特に中小企業においては企業型DC導入後の投資教育をはじめとした従業員サポートが事業主の負担となるケース等、更なる普及に向けた課題も残っています。

こうした点を考慮し、当金庫のグループ会社である農林中金バリューインベストメンツ(NVIC)は岡三証券株式会社が提供する企業型DCプラン「オーナーズクラス」(OC)の代表事業主として本プランの普及に取り組んでいます。OCは中小企業に適したプラン設計を意識して従業員一人から加入できること、最終受益者目線で将来の資産形成に親和性の高い長期投資に適した運用商品を選びぬいてラインアップに揃えたこと、また投資教育のコンテンツも充実している点が特徴であり、当金庫も取引先の紹介などを通じて、この取組みを支援しています。

また、NVICは設立以来一貫して“長期厳選投資”をテーマとした投資機会の提供に努めています。企業型DCは「年金資産運用として長期・毎月積立する投資インフラ」であり、長期厳選投資との親和性が高い制度です。当金庫としては今後も、企業型DCをはじめとしたグループ各社による様々な金融商品の提供を通じて、ステークホルダーのみなさまへの価値提供と資産運用ビジネスそのものの強化に繋げてまいります。

※1 運営管理機関連絡協議会「確定拠出年金統計資料(2024年3月末)」

岡三証券

**農林中金
バリューインベストメンツ**

業務提携後の取組み・検討事項

① 運用商品の充実化	ラインアップの不断の見直し、ファンドモニタリング向上、情報開示等
② 投資教育の充実化	コンテンツの品質向上、UX改善、投資セミナーなど事業主サポート等
③ 事務ITインフラの充実化	事業主のユーザビリティの向上、お客さまのサポート体制強化等
④ 組織運営体制の充実化	人員増強、ジョイントベンチャー設置など、運営体制強化に向けた不断の検討等

企業型確定拠出年金の普及を目指す

▶ 海外拠点のネットワークを活用してカーボンニュートラル達成に貢献



ロンドン支店
ストラクチャードファイナンス班

稲垣 駿

CO₂を回収して貯留を行うCCSは、カーボンニュートラルの実現において再生可能エネルギーだけでは補いきれない部分を埋める先進的な技術であり、CO₂の排出が避けられないとされる産業での脱炭素化には不可欠なものです。本取組は、英国として初となるCO₂輸送貯留プロジェクト向けのファイナンスであり、世界的に見ても最も先行するCCSクラスターのプロジェクトの一つとして、国内外から注目されている案件です。本取組を通じて、英国リバプール沖の産業エリアの脱炭素化、ひいては英国のネットゼロ達成に貢献することが可能です。

本取組にあたっては、ロンドン支店の有するネットワーク等を活かし、欧州の事業会社やアドバイザー企業などからもCCS技術に関する情報を取得しながらプロジェクトのリスク

を精査し、最終的に融資実行に至りました。

近年、サステナビリティに関する世の中の潮流を受けて、インフラアセットへの資金ニーズが高まっています。これに対応して、当金庫では2030年度までにサステナブル・ファイナンス新規実行額10兆円という目標を掲げており、資金対応を通じて、環境・社会課題の解決に貢献しています。

サステナビリティの分野で先行する欧州では、CCSや水素などの脱炭素に向けた新たな取組が既に複数存在しており、中長期的な需要増加も見込まれています。当金庫としても、投資収益の確保に加えて、未来の地球環境にも貢献するべく、こうした分野へのファイナンス等に、引き続き積極果敢に挑戦していきたいと考えています。

▶ グループ会社連携を通じて収益源の多様化を目指す



事業戦略投資部 事業戦略投資班

金井 隼太

NVICは“長期厳選投資”をコンセプトとしてこれまで投資信託商品「おおぶね」シリーズ等を通じた投資機会提供を行ってきました。企業型DCは個人が長期資産形成を目指すうえで注目が集まっており、加入者数も伸び続けていることに加え、NVICのこうしたコンセプトとも非常に親和性が高い分野です。今般、NVICは岡三証券と業務提携を行い、提供サービスの一層の充実・強化を目指すこととし、特に中小企業を中心としたみなさまへの価値提供を図るほか、農林中金グループによる資産運用ビジネスの強化にも繋げていく考えです。

私が所属する事業戦略投資部は、NVICをはじめとするグループ会社とも連携しながら、目先の収益に捉われない5年後、10年後の

中期的な時間軸を見据えた取組を推進しています。他業態による金融業界への参入によって、金融機関の役割が変化していくなか、当金庫としては“社会に存在意義のあるグループ会社群”を作り、様々な運用ラインアップを通じてステークホルダーのみなさまへの価値提供を行っていきたくと考えています。

これからもNVICをはじめ、資産運用ビジネスを担うグループ会社側では、今回のような外部/パートナーとの発展的な提携等を通じて収益を獲得できるような取組を進めてまいります。またその結果として、こうした資産運用ビジネスを通じ、農林中金グループ全体で市場変動に耐性のある独自の事業ポートフォリオを構築し、収益確保していくことを目指したいと考えています。